

Partners Action

後継者育成とインバウンド対応
後継者不足が叫ばれる伝統工芸界において、高橋工房は門を叩く若者を歓迎し、地方から来た志望者には住む場所を提供しながら技術を伝承することもあるとのこと。今も、志ある若者が江戸の技法を学んでいます。

また、版木には非常に硬い山桜が使用されます。これは、美術品として数枚作るだけでなく、数多くの印刷に耐えうる強度が必要だからです。
近年、和紙の原料となる楮（こうぞ）の栽培者や、適切な木材、道具の作り手が減少している中、高橋工房はこれらの伝統的なサプライチェーンを維持することにも懸命な努力を続けています。

江戸木版画を現代にアップデート
高橋工房の特徴は、「伝統の「復刻」に留まらず、現代社会とリンクした新しい作品を世に送り出している点にもあるでしょう。例えば、画家・デザイナーのみならず彫刻家・建築家等のコラボレーション、また某菓子メーカーの国民的キャラクターの木版画再現等を試みています。

新型コロナウイルスの感染拡大により、街にも世界にも元気が失われていた2020年。当時はシャッターをおろす店も多く、人々の気持ちも沈みがちだった中で「通りを歩く人に少しでも楽しさを届けたい」という思いから高橋工房は「道のギャラリー」をオープンしました。以来、工房で生まれた作品やコレクション、さらに協力施設の作品なども借り受けながら、季節に合わせて展示を続けてきました。展示替えを楽しみにしている方々も増え、地域の中で親しまれる存在となっています。

インバウンド対応では海外のエンジニアを通じて世界中から観光客を受け入れ、レクチャーや木版画の摺り体験を提供しています。これは単なる観光体験ではなく、伝統技術の持つ哲学や美学を正しく伝える場として機能しています。



インバウンド客が体験で製作するうちわ。浮世絵柄が大人気。

「道のギャラリー」は地域の人々の感性ワクワクスポット。

高橋代表は世界に向けても精力的に活動の幅を広げてきました。フランス、イタリア、イギリスといった欧州やアメリカ、さらにはタイ、ミャンマー、カンボジアといったアジアの国々まで、世界各地で講演会や実演、ワークショップ、展示協力を通して日本の伝統文化の魅力を発信してきました。

高橋工房は、長年にわたり培ってきた技と感性を礎に、日本文化の奥深さを国内外へ伝え続けているのです。

高橋代表は世界に向けても精力的に活動の幅を広げてきました。フランス、イタリア、イギリスといった欧州やアメリカ、さらにはタイ、ミャンマー、カンボジアといったアジアの国々まで、世界各地で講演会や実演、ワークショップ、展示協力を通して日本の伝統文化の魅力を発信してきました。



通りから眺められる「道のギャラリー」は地域の人々の感性ワクワクスポット。

ジェイスパートナーズメッセージ

Message

◆伝統を守ることは、今の時代に合わせて前へ進むこと

私たちは「伝統を守ることは、今の時代に合わせて前へ進むこと」と捉え、世界の未来に向けての取り組みであるSDGsの理念にも通じる活動を続けています。最近では「17の持続可能な開発目標」として掲げられている現代社会の課題を伝統技法で描く「浮世に問う」というシリーズ作品を製作しました。これは、ジェンダーや地球温暖化といった深刻なテーマを「可愛い、綺麗」と感じるデザインで表現することで、「多くの方々がこの問題に触れるきっかけとなるように」という願いを込めています。これからも、ぜひ皆さまのお力添えをいただければ幸いです。



2026年3月、高橋工房はJACEより「SDGs活動認証」を受けました。写真は授賞式のもの。

株式会社高橋工房
六代目代表 高橋由貴さん(右)

株式会社高橋工房について

Company

- 住所：〒112-0005 東京都文京区水道 2-4-19
- 創業：安政年間
- 法人設立：昭和38年（1963年）
- 営業品目：浮世絵版画の復刻（江戸木版画）

日本画・洋画・グラフィックデザインの伝統木版画による再現
工芸品企画制作（複製画制作および、その軸装・額装、色紙、短冊、団扇、扇子ほか加工品）

- その他取り組み例：文化の普及（講演会／実演会／ワークショップ／技術指導）
後継者育成（職人育成／教育事業）

<https://takahashi-kobo.com/>



高橋代表は下記要職も務める

- ❖ 東京伝統木版画工芸協同組合 理事長
- ❖ 文化庁認定 選定保存技術保存団体 浮世絵木版画摺り技術保存協会 副理事長
- ❖ 文京区伝統工芸会会員 副会長



「江戸の職人氣質」が生み出す「革新性」

江戸木版画は、その技術が経済産業省から「伝統的工芸品の指定を受けているだけでなく、文化庁からは「選定保存技術保存団体」として、技の保存と伝承、修復における認定を受けています。この認定を維持するためには、100年前と同じ材料や道具を使い続けることが求められており、一切の機械化を排除した伝統的な手仕事で貫かれています。

100年以上守り続けた職人技
東京都文京区に構える株式会社高橋工房は、江戸時代の安政年間（1854年〜1860年）に設立され、約160年以上にわたり「江戸木版画※」の伝統を守り続けている老舗の工房です。現在は、生まれた時から職人の仕事を見て育ったという六代目の高橋由貴さんが代表を務めており、その技術と歴史は近代日本の印刷のルーツとして高く評価されています。

※和紙に絵柄を摺り重ねて作品を仕上げる、日本独自で世界に類を見ない高度な技術を要する木版画。



職人の技を存分に発揮させるのは最高品質、唯一無二の馬棟

江戸木版画の質を左右するのは、職人の技だけではありません。高橋工房では、道具や材料の調達にも細心の注意を払うとともに、大きなこだわりを持っています。例えば、摺りに欠かせない道具である「馬棟（ばれん）」は、和紙を42枚も重ねて漆で固め、竹の皮で編み上げた非常に硬く精密な構造をしている特別製の馬棟です。

職人の魂が宿る道具と材料

工場の根幹を支えるのは、「版元（はんもと）」という役割です。これは現代で言う編集者やプロデューサーにあたり、企画を立て、絵師、彫師、摺（すり）師という各分野の専門職人をまとめ上げる重要な立場です。代表の高橋氏は、父である四代目から「版元として一通りの仕事に分かるようになりなさい」と教育を受け、彫り、摺り、表具（掛け軸他）、型紙などの広範な知識を習得しました。

<参考>近代日本の印刷を伝統文化で支えた高橋工房の軌跡（～昭和38年）

- ❖ 安政年間 ▶ 創業。木版画摺師として、また版元として代々その技術を継承、今日に至る。
- ❖ 明治10年 ▶ 二代高橋倉之助が第一回内国勲業博覧会に出品。大久保利通内務卿より褒章される。
- ❖ 明治23年 ▶ 三代高橋倉之助が来日中の英国コンノート殿下の前で木版摺り実技を披露する。
- ❖ 終戦後 ▶ 四代高橋春正はマッカーサー元帥の招きを受け、GHQ本部内で伝統木版技術を披露する。
- ❖ 昭和6年 ▶ 細川家の依頼でセザンヌの水彩画を木版画にする。
- ❖ 昭和28年 ▶ 天皇皇后両陛下の前で木版摺り実技を披露する。
- ❖ 昭和38年 ▶ 法人組織とし、株式会社高橋工房となる。

第一回内国勲業博覧会における大久保利通内務卿から贈られた報賞状



ジェイスパートナーズ
アクション

日本の技と心を今に伝える
「江戸木版画」を世界が賞賛
株式会社高橋工房